

氏名： 秋山 光文 (AKIYAMA Terufumi)  
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系  
学位： 文学修士 (1974)、M.A.(Art History)  
職名： 教授  
専門分野： 東洋美術史 (とりわけ南アジアを中心とした仏教美術史)  
History of Asian Art、(esp. History of South Asian Buddhist Art)  
E-mail： akiyama.terufumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

インド美術／仏教美術史／仏教説話図  
Indian Art / History of Buddhist art / Buddhist Narrative art

◆主要業績

総数 ( 1 ) 件

- ・「東京国立博物館所蔵のインド彫刻について」科学研究費補助金『美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究ー全アジアから全世界へ』(研究代表者：小川裕充) 平成 19 年度報告書

◆研究内容 / Research Pursuits

古代インドにおける仏教美術の展開を、仏塔 (ストゥーパ) の荘嚴という観点から捉え、地域的・歴史的展開を仏教史上における興隆期 (仏教文化の誕生・大乘仏教の成立・密教文化の成立) ごとに概観し、それぞれの特徴について考察することを試みている。今年度は、大学院のゼミで取り扱った G.H.R. Tillotson (ed.), "Paradigms of Indian Architecture", Curzon Press, London, 1998. について、院生と共にインドにおけるストゥーパの形態とその機能について討議を重ねている。

## ◆教育内容 / Educational Pursuits

インドに始まる仏教美術の流れを、仏教文化の伝播とともに概観しながら、わが国の仏教文化との比較を試みる。そのために、学部の「図像分析学特殊講義」に於いては、インドにおける仏教美術について、その発生のプロセスと特質を論じた。「形象分析学演習」においては、大江親通『七大寺巡礼私記』を底本とし、平安前期の記録と現在の奈良諸寺における伽藍・尊像について、学生と共に検証を進めている。大学院の「仏教美術史特論」では、インドにおける仏教説話図について、テキストと図像との創刊を検証した。「仏教美術史演習」では、G.H.R. Tillotson (ed.), "Paradigms of Indian Architecture", Curzon Press, London, 1998. を底本に、院生と共にインドにおけるストゥーパの形態とその機能について討議を重ねた。

## ◆研究計画

インドを淵源とする仏教美術は、広くアジア各地で受容されそれぞれの地域で独自の展開を遂げていく。異文化として取り込まれた仏教美術が、各地の民族性のなかで如何に変容を遂げていくのかを比較研究し、「インド的」な要素がどこまで異文化として昇華されていくのかを確認していきたい。現在研究協力者として参加している科学研究費補助金「美術に即した文化的・国家的自己同一性の追求・形成の研究——全アジアから全世界へ」(研究代表者：小川裕充)は、そうした文脈の中で研究協力をしている。

## ◆メッセージ

これからの世界を生きる者にとって、最も大事なことは、あらゆる事象を他から与えられる情報のみによって判断するのではなく、自ら確認することにより実証する姿勢を貫くことであろうと信じている。溢れるばかりの情報に取り巻かれて生活する現代の我々にとって、真実とは何か、真理とはなにかということを常に問いかけてほしい。